

Toward a Model of Literary Comprehension

R. A. Zwaan

B. K. Britton & A. C. Graesser (eds.), *Models of Understanding Text* (pp.241-255), 1996.

現在の文章理解モデルは文学的文章の理解をうまく説明するようにはできていない。その理由のひとつは、文章理解の研究者は自然な文章ではなく実験者がつくった文章に焦点をあてる傾向があるからだ。しかし文学的文章の理解には特別な問題がある。たとえば文学的文章の多くは、それが「思いやりがない」ものになるように注意深く作られている。ここでは、文学的談話の「思いやりのなさ」を考慮した文学的理解のモデルを提案する。なおこのモデルは、Kintsch&van Dijk の文章理解モデルを拡張したものである。

本章では次のように想定する。読み手は談話の個々のタイプのための認知的制御システムを構築している。文学的制御システムは文学的文章の理解をモニタするものであり、その発動のひきがねになるのは、本の特性や、読み手のゴールや、教示などである。

1 文学性

今世紀初頭のロシア・ファルマリズムとプラハ構造主義の示唆によれば、文学的文章の特徴は、理解過程の通常の手続きを脱線させる装置を含んでいるという点である。散文で重要な文学的装置は、フラッシュバック、フラッシュフォワード、普通でない視点、オープン・エンディングなどである。

- Shklovsky(1916): *defamiliarization* [略]
- Mukarovsky(1964): *foregrounding* [略]
- Jakobson(1960): 指示的機能と詩的機能... 対立する機能だが、排他的というわけではない。

文章理解のモデルの多くは、文章が *considerate* であること (i.e. 読み手の処理負荷を最小化していること。たとえば、単純な単語・文をつかう、ポイントを先にのべる) を前提としている。

2 表象のレベル

今日の言語理解理論はふつう、文章が3つのレベルで表象されていると想定している。

表層構造 ふつう数秒で失われるが、文脈中で語用論的な役割を果たしている表層構造は保持されやすい¹。

テキストベース 表層構造より保持されやすい。argument 重複が多いと文章はわかりやすくなる²。

状況モデル 多様なタイプの情報を含んでいる。

- 実験室的研究には、空間的情報に焦点をあてたものが多い。E.g. 物語の主要登場人物と空間的に近い対象についての情報は利用されやすい³。しかし自然な文章を用いた研究では、空間的情報は状況モデルにおいてそれほど重要ではないことが示されている⁴。空間的情報が主題に関連しているかどうかには依存するのだろうが、実証的証拠はない。
- いくつかの研究は、因果的・動機的情報が状況モデルの骨組みになっていることを示している。

* 因果的に重要な文は再生されやすい⁵。

¹ Keenan, MacWhinney & Mayhew (1977 JVLVB); Bates, Masling & Kintsch (1978 JEPH); Long (1994 DP)

² Britton & Golgoz (1991 J. Edu. Psy.)

³ Gienberg, Meyer & Lindem (1987 JML); Haenggi, Gernsbacker & Bollinger (1994 in collection); Morrow, Greenspan & Bower (1987 JML); Morrow, Bower & Greenspan (1989 JML).

⁴ Zwaan (1993 Book); Zwaan & van Oostendorp (1993 DP).

⁵ Trabasso & Sperry (1985 JML)

- * 人物の傾向と矛盾する行為があると読み時間が長くなる⁶。
- * 読み手は人物の感情状態について推論している⁷。

– 状況モデルには他の次元もあるだろうが (e.g. 道徳判断), 実証的証拠はない。

指示的機能が優勢な文章では, 読み手の焦点は状況モデル構築にむけられ, 詩的機能が優勢な文章では, 読み手の焦点は表層構造・テキストベースにむけられる, と考えられる。

3 文学的文章

文学的文章は思いやりにないので ...

- 表層のレベル
 - 読み手の焦点は表層構造にむけられる⁸。
 - 言語理解の通常の手続きが脱線させられる。E.g. Henry James の文章の複雑な文章を読むとき, 読み手は読み直しを行う⁹。
 - 出来事の記述の順序が時系列的でないことが理解を妨げる¹⁰。
- テキストベースのレベル
 - ポイントが最初にてこないので, ボトムアップ的な処理になるだろう。
 - 無関係な情報が突然出現したり (結束性がひくい), その情報があとで重要になったりする (よけいな処理負荷がかかる)。
- 状況モデルのレベル
 - 現実世界から離れているので状況モデルを構築しにくい。
 - 語り手 (著者ではない) の視点が導入されると, 推論にあたってその語り手の知識ベースが利用できないので, 状況モデルを構築しにくい。
 - 複数の状況モデルを可能にする場合があるので (e.g. オープンエンドな結末), 状況モデル構築は可能な限り遅らされるだろう。

4 文学的理解に関する実証的データ

文章を { 文学作品/ニュース } と教示して読ませると¹¹ ...

- 表層構造の表象構築は前者で促進される。
- テキストベースの表象構築は, 全体的には差がないが, 因果的に重要でない情報については前者で促進がみられる。
- 状況モデル構築は後者で促進される。
- 読み時間は前者で長い。ジャンル情報がオンライン処理に影響。
- 現実世界に反する情報が与えられたときの読み時間増加は後者で大。

⁶ Albresht, Hakara & O'Brien (1992)

⁷ Gernsbacker et al. (1992 Cog. Emo.)

⁸ Kintsch (1992)

⁹ Carpenter & Just (1992)

¹⁰ Ohtsuka & Brewer (1992 DP)

¹¹ Zwaan (1991 Poetics, 1993 Book, 1994 DP)

5 計算モデルをめざして

以上の知見を，Kintsch の構築-統合モデルを拡張することによって計算論的にモデル化することができる。

構築-統合モデルの観点からいえば，ニュース理解過程はよりラディカルな統合過程（無関係な情報の不活性化が速い）を含み，従って強い状況モデルが構築され，すでに構築済みの表象と矛盾する新情報の処理はよりたいへんになる。

制御システム（e.g. 文学的制御システム）のこのような役割を，構築-統合モデルに以下のように統合することができる。

- 構築段階（自動的）には影響しない。
- 統合段階（方略的）に影響する。 実装の方法は2つある。
 1. 文学的制御システムは，統合過程がはじまる閾値が低いことに相当する。
 2. 文学的制御システムはノードのひとつの層となっている。この層のノードが活性化すると，文学的理解に関係あるノード（E.g. 表層的特徴，無関係な命題；文学史 etc.）が活性化され，あまり関係ないノード（状況モデルの諸側面）が抑制される。こうして精緻なテキストベース表象がつくられ，状況モデル構築は遅れる。

6 読み手のあいだのちがい

読み手のあいだの個人差の重要な原因は作業記憶スパンであろう¹²。作業記憶スパンが小さい読み手は，あいまいな文章を読む際にトップダウン的な方略を用い，新情報が予期と異なると再読が必要になる¹³。いっぽう作業記憶スパンが大きい読み手はボトムアップ的な方略を用いるので，時間はかかるが新情報を柔軟に処理できる。

文学的文章の理解に適しているのは後者であろう。こうした個人差は，構築過程がはじまる閾値の高低としてモデル化できる。

7 結論

[省略]

(おわり)

¹² Daneman&Carpenter(1989JVLVB)

¹³ Whitney&Clark(1989incollection)